

海域の概要

本湾は、佐世保湾を介して針尾瀬戸および早岐瀬戸のみで外海と通じている、非常に閉鎖性が強い湾です。湾内では真珠の養殖などが行われています。また、湾内には長崎空港が存在しています。



Specification

諸元

湾口幅：0 3 3 km

面積：3 2 1 km²

湾内最大水深：54 m

湾口最大水深：54 m

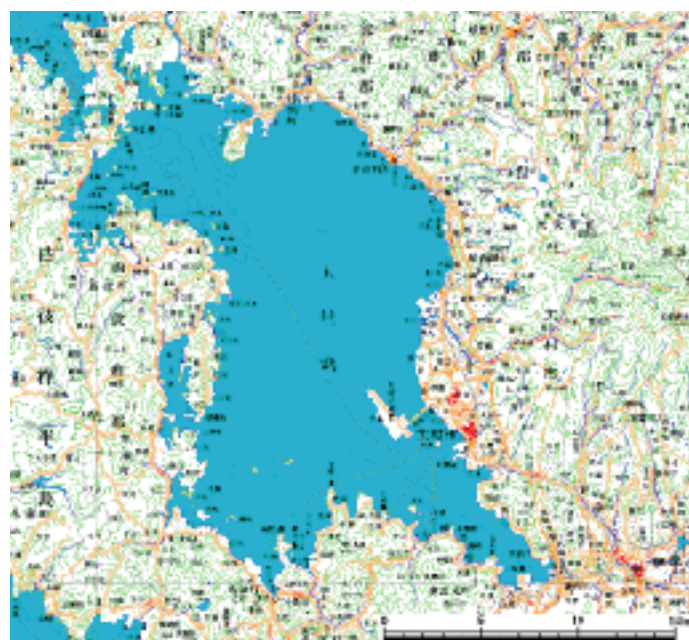
閉鎖度指標：5 4 2 9

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

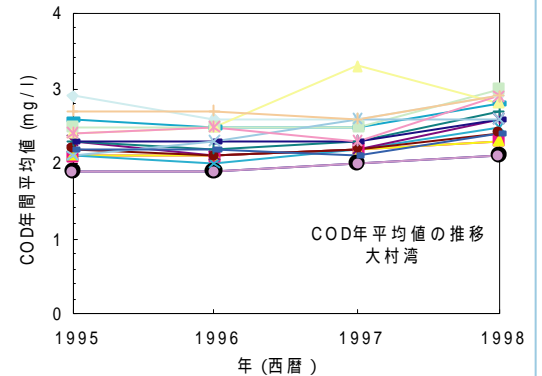
長崎県佐世保市観汐橋、同市と西彼杵郡西彼町を結ぶ西海橋及び陸岸により囲まれた海域。



環境

大村湾は外海とは二つの狭小な瀬戸と連結した袋型の湾で、湾内水は停滞ぎみになっています。このため夏季には湾中央部の底層で貧酸素水塊が形成され、赤潮を誘起する原因ともなっています。また、湾内には 24 水系 51 河川が流入し、沿岸人口も 20 万人に達するため、陸域からの汚濁負荷も多くなっています。特に人口が密集する南部海域では、夏季に環境基準値（平成 10 年度、A 類型）である 2 mg/l を超過することも多く、COD 年平均值は 2 ~ 3 mg/l の範囲で推移しています。

底質は湾口を除き粘土質の細かい粒の堆積物が分布しています。



自然

大村湾はその湾型から、通称「琴の湖（うみ）」とも呼ばれる風光明媚な海湾です。佐世保湾を経て外海に通じる針尾瀬戸は、西彼杵半島に取り囲まれる大村湾の狭い出入り口で、春の大潮時には渦を伴った 9 ノット程の流れが生じます。大村湾はリアス式海岸で、温暖な気候、静穏な海象を反映して、湾岸には長崎空港のほか、さまざまなテーマパークが造られています。



カネコシダ群落

湾内の生物相をみると、海藻相は湾口ではヒトエグサ - フクロノリ - カヤモノリ群落で種類数も多いですが、湾奥に進むに従い、種類数も少なくなり、優占種もヒラアオノリ - カヤモノリ群落、スジアオノリ - ウミトラノオ群落へと変化します。また、平成 13 年 5 月に行われた調査では、大村湾沿岸各地先で大規模なアマモ場が確認されています。このようなアマモの繁茂は近年にない規模であるということです。また、遊泳性の生物ではイカ・タコ類で 10 種、魚類では 107 種が確認され、特にテンジクダイ、ハタタテヌメリ、ネズミゴチ、スジハゼが多いことが知られています。

文化歴史

天正 10 年（1582 年）、日本人として初めてヨーロッパを公式訪問した 4 人の少年がいます。彼らの派遣には日本人最初のキリシタン大名大村純忠が深く関わっています。

大村湾奥にある長崎空港は、1975 年に開港した世界初めての海上空港です。

産業

大村湾では様々な漁業が行われていますが、底びき網によるエビ、エソ、ハゼの漁獲やアカガイ漁、カタクチイワシ漁などが盛んです。

また、湾内は古くは天然真珠自生地として知られ、以前は英虞湾に次ぐ生産がありました。近年は水質悪化により低迷しています。

そのほかの産業では、ミカン栽培を主体とした農業とテーマパークによる観光が主要で、ハウステンボスをはじめとして、オランダ村、パイオパーク、嬉野温泉などの観光スポットがあります。



嬉野温泉